

温暖化をくい止めたい

学習時間

40分

学習日

月 日

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

日本は国をあげて*省エネ技術の開発に取り組んできた。その技術は世界のトップレベルだ。身の回りの電化製品は、ひと昔前とはくらべものにならないほどエネルギーを食わないものになっている。

なのに、日本では*CO₂が増えている。もつとも増えているのは、オフィスビルや家庭からの排出だ。原因は、パソコン、エアコン、テレビ、ビデオデッキなど、エネルギーを食う電化製品が増えたため、(X)や(Y)は一家に2台以上ある計算だ。

家庭から出ているCO₂を一人当たりになおすと、一日におよそ5・8kg。これをどれだけ減らせばいいかといえば、目安は一人につきマイナス1kg。2050年までには、今より3分の1にまで減らす必要があるのだ。

ぼくたちはカンちがいしてたんじゃないだろうか。「技術さえ開発すればCO₂が減らせる」と。

①「ダイエット・ピザ」というたとえ話がある。ある会社が、低カロリーのピザを開発したとする。でも、買った人は「カロリーが低いから」と安心してたくさん食べてしまい、むしろ

太ってしまうかもしれない。

温暖化問題も同じだ。高いお金をかけて省エネ製品を開発しても、見こみどおりにCO₂が減るとは限らない。その技術を目的どおりに使える仕組みになっていないと、せっかくの技術が生かされないのだ。新技術を開発することも大切だけれど、これからはその技術がもつとうまく使いこなされるような仕組みをつくらないといけない。

そのために、ITが力を発揮できると思っている。

ITとは「インフォメーション・テクノロジー」の略。「情報技術」という意味で、さまざまな情報をあつという間に集めて、人に役立つ情報に変えることができる技術だ。

ITを使えば、たとえばこんなことができる。いま、家の中でたくさんエネルギーを使っているのは、テレビか、エアコンか、冷蔵庫か、それともドライヤーか、リビングに取り付けたパネルを見たらすぐわかるような仕組み。先月と比べて何を使いつているかもわかるようにできるし、出したCO₂の量で表示することもできる。

また、ぼくたちは身近なものでたとえられると実感わく。そこで、出したCO₂と同じだけの量をきゅうしゅうする木の本数で、しかもそれを絵にして見せる手もある。たとえば、毎月月末に「きゅうしゅうに○本の木が必要なCO₂排出量になりました」と示すのだ。

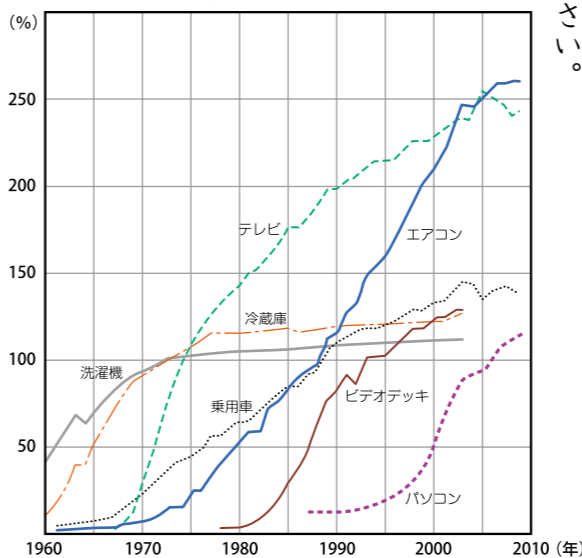
このように、ぼくたちがどれだけCO₂を出したかがばつと見てわかるようになれば、省エネのしがいもあるし、ダイエット・ピザのような使いすぎを防げるだろう。家電製品を買いかえるときには、『いまよりもっと省エネのものを』と考えるようになるだろう。

筆者は、温暖化問題のために、ITで何ができると考えているのだろうか。

今回の問題文

問一 次の図は、「家庭の家電製品の増え方」を示したグラフです。このグラフから読み取れることについて、あとの(1)・(2)の問いに答えなさい。

家庭の家電製品
世帯あたりの保有率



出典：内閣府経済社会総合研究所編「平成21年版家計消費の動向」(全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト <http://www.jccca.org/>) より

(1) 文中の(X)・(Y)に適切な電化製品を書きなさい(X・Yは順不同)。

X Ⅱ

Y Ⅱ

(2) 「パソコン」について、この図からどのようなことが読み取れますか。自分の言葉で書きなさい。

問二 ①、筆者がこのたとえ話を用いて言いたかったのはどのようなことですか。適切なものを次の中から二つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 省エネ技術を開発することができても、あまりに高いお金がかかるのでは、根本的な解決にならないということ。
- イ 省エネ製品のための技術を次々に開発しても、それによって見こみどおりにCO₂が減るとは限らないということ。
- ウ 新技術を開発しても、それを目的どおりに使える仕組みがないと、技術が十分に生かされないということ。
- エ 技術をうまく使いこなす仕組みをつくるのが最優先であり、開発にお金をかけるのは二の次でよいということ。